

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
第 26 回大臣級会合(MLM26)
FNCAの活動方針に関する共同コミュニケ【仮訳】
2025 年 11 月 27 日(於、東京)採択

我々、FNCA MLM26 参加国であるバングラデシュ人民共和国、インドネシア共和国、日本、カザフスタン共和国、大韓民国、マレーシア、モンゴル国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国及びベトナム社会主義共和国の代表は、

積極的な地域のパートナーシップを通じて、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、地域の社会的・経済的発展を促進するとともに、加盟国の社会的・経済的充実に繋がる研究開発、知識と情報の共有及び能力の構築が、とりわけ FNCA の主要な役割と活動目的であることを想起し、

持続可能な農業開発、食品安全、環境に配慮した工業開発、放射線治療、気候変動の影響軽減、自然生態系の保全などの分野における放射線利用や関連する FNCA のプロジェクトの潜在的価値を認め、

エネルギーミックスに関する解決策や、温室効果ガスの排出削減および/又は回避に寄与し得る原子力エネルギーの潜在的な価値に留意し、

原子力科学技術分野及び放射線利用分野における必要な人材の確保の重要性、ジェンダーバランス及びジェンダー平等を促進すること並びに若年層/多様な専門家等を惹きつけることを通じて知識を継承することの重要性を認識し、

農業、産業、医療、環境分野における FNCA プロジェクト活動の進展を評価し、FNCA 賞受賞者の卓越した功績を称えるとともに、

IAEA、OECD/NEA などの原子力関連国際機関・政府間機関、およびその他の関連する国内・国際機関との協力の重要性を認識し、これらの機関との協力・連携の可能性を歓迎する。

我々は次のことに向けて取り組むことを決定した：

1. 持続可能な農業開発と食品安全、環境保護、医療と健康、原子力安全とセキュリティ文化

持続可能な農業・食品安全、環境保護、医療、原子力安全・保全セキュリティの基盤整備に関連する原子力科学技術及び放射線利用の応用分野における活動を継続的に

拡大する。その過程で、既存の研究開発分野を推進するとともに、将来を見据え、加盟国が広く関心を持ち、持続可能な開発に貢献しうる研究開発分野を積極的に取り入れる。

2. 原子力科学技術分野および放射線利用における人材開発(HRD)の協力

各加盟国のニーズや状況に応じて、体系的な人材交流や人材インフラの強化に関する取組について、対面式のセミナーやワークショップ、ならびにウェビナーやオンラインワークショップを開催し、情報交換を促進する。FNCA のプロジェクトや活動への参加、リーダーシップ、代表の多様性は重要である。労働力のジェンダーバランスや年齢の多様性の促進などを通じて、原子力科学技術分野における平等性を実現することを目指す。

3. 研究開発成果の普及

加盟国に対し、放射線育種、放射線加工、研究炉利用、アイソトープ製造、中性子放射化分析及び原子力利用に関連するプロジェクトの成果について、その商業化の可能性を考慮しつつ、エンドユーザーによる利用を促進するよう奨励する。これにより加盟国の社会経済的福祉への貢献をより効果的に図ることができる。

4. 小型モジュール炉(SMR)などの次世代型原子炉を含む原子力発電に関する情報の共有

2025年大臣級会合における円卓会議での議論を踏まえ、各加盟国のニーズと状況に応じて、対面式セミナー・ワークショップ、ウェビナー・オンラインワークショップ(スタディパネルセッションを含む)を開催し、原子力発電(新型原子炉の開発状況、安全性、経済性、政策面などの技術的側面)に関する情報交換を促進する。

5. 推進すべきその他の分野及び活動

加盟国が優先する原子力科学技術の応用に関する活動を推進する。特に、持続可能な農業開発と食品安全、環境保護、医療と健康、原子力安全・セキュリティ文化のためのインフラ整備において、既存の研究開発分野を加速するとともに、加盟国の幅広い関心分野から将来の研究開発分野を採り入れることで、加盟国の持続可能な発展を支援する。

6. パブリック・コミュニケーション及び広報機能の拡充

加盟国及びアジア地域における原子力科学技術への公共の信頼構築を継続的に推進し、FNCA ウェブサイト及び加盟国で開催される公開講座を通じた広報機能の拡充に努める。この方針に沿い、2026年2月に東京にてFNCA スタディ・パネル「ステークホルダー参画を含む公共情報・公共コミュニケーション(仮称)」を開催し、各国のベストプラクティスを共有・議論する。

7. 国際機関・政府間機関との関係強化

FNCAの活動と相乗効果が期待できる分野において、IAEA、OECD/NEAを含む関連国際機関・政府間機関との関係をさらに強化するよう努める。

例えば、FNCAが構築した放射線治療プロトコルが「Rays of Hope」の枠組みで広く活用されることを期待し、「Rays of Hope」を立ち上げたIAEAとの将来的な連携の可能性を探る。